

漢和防務評論(KDR) 20101218

全面的に修復されたワリヤーグ空母

KDR 編集部特電：

東欧の権威ある造船工業界の情報源から驚くべきニュースがもたらされた。大連における約 4 年間の修復工事の結果、旧ソ連の空母ワリヤーグは、内部設備が元の設計図通りに修復されたと言う。内部の全ての船室、発電設備、動力設備が完全に復旧した。同情報源は、「相当大がかりな工事で、新たに空母 1 艘造るのと同程度の経費がかかった。旧ワリヤーグが大連に到着したときは、内部の設備はほぼすべて撤去されていた。中国側は設計図の一部は入手していたが、不完全であり、工事は模索しながら行われた。現在は完全に元通りに修復した」と述べた。

このような労苦を費やして内部を全面的に修復した目的は何だろうか？情報源は、「その目的は艦載機 J-15 をテストするためである。ワリヤーグが無ければ、海上テストが出来ない。ワリヤーグの内部構造を復旧することによって空母建造の経験を得ると同時に、国産空母の設計図を作成することが出来る。中国海軍は、強い決意をもってワリヤーグを復元しようとした。エンジンはウクライナのエンジンを使用した」と述べた。しかし彼は動力装置の復旧に関わっていなかったため、動力装置の名称は知らなかった。KDR の分析によると、中国が唯一使用できるのは”ウクライナ製の動力装置”である。これは、当然ウクライナから技術移転した DA-80 型ガスタービンエンジンである。またこのエンジンは、052C 型及び 052B 型ミサイル駆逐艦の動力装置でもある。この点は、ウクライナから確認を得ている。2 年以上前に、ウクライナのガスタービンエンジン設計者は、KDR に対し次のように話した。すなわち「中国は、ウクライナに対し、大型ガスタービンエンジンを空母の動力装置としてどのように使用したらよいか問い合わせせてきている。当時ウクライナは、6 台の DA-80 型を採用すべきと提案した」と。このようにワリヤーグ空母は、ウクライナの専門家の提案である DA-80 型ガスタービンエンジンを受け入れたのは確実であろう。このことから推測すると、国産の中国空母は、同じエンジンを使用する可能性が極めて高い。

またワリヤーグは、常時海水に浸かっていたので、金属疲労の問題が指摘された。情報源は、「彼らは当初、その点を心配していたが、驚くべきことに、ソ連時代に生産された鋼材は全く問題がなく、使用寿命は少なくとも 30 年はあるという。したがって問題はない」と述べた。

上部構造物の修復は比較的容易である。外界が知っているように、現在、主要なレーダーシステム及びその他の通信システムを取付け中である。艦載機の訓練のためだけにレーダー、その他の通信システム、航法システムは必要だろうか？情報源はこの問いに対して、「艦載機の離着陸訓練は、實際上総合的な航海技術と精密な航法を行うことが必要であり、同時に艦載戦闘機の離着陸には離陸、着陸が出来るだけでは不十分である。総合的な試験用航空機は、レーダーとの整合、システムとしての一体化した機能が必要であり、それができて初めて完全修復したことになる」と述べた。

中国がワリヤグ空母の内部を完全修復したとのニュースは、本誌(KDR)をどのくらい驚かせたか。それ以前、外界の多くの予測では J-15 型艦載機の離着陸訓練のためだけの修復と見ていた。大連造船所が空母の内部の一部分だけを修復するものと見ていた。現在見たところ、エレベーターを含み主要装備は全て修復されている。

中国が完全な修復作業を行ったということは、中国海軍がワリヤグから全ての建造経験を得ようとしていることを示している。しかもワリヤグは、修復規模から見て、必要ならば訓練用だけではなく、一定程度の実戦能力を具備している。

本誌記者が中国造船工業界の技術者と空母の建造問題を談じたときに、彼は隠さず肯定した。これは自然の成り行きであり、時間の問題であると。しかし現在、依然として解決すべき技術的な問題があり、総合技術に関わる問題が非常に多いという。「ある情報源によると、大連造船所は将来の中国海軍空母として原子力空母を考えているという。原子力空母の是非を考慮中であるか？」との質問に対して、中国の艦船技術者は、「どのような空母であろうと、大型空母の趨勢は原子力動力である。中国も例外ではない。現在計画中である。どの造船所が建造するかは未定である」と述べた。この証言は、中国が原子力空母を開発する方向に向かっていることを示している。

次第に増えている各種情報から判断すると、空母が正式に就役する前に、中国海軍は 8000 乃至 9000 トン級の大型水上艦艇群を建造するであろう。これらの艦艇は、上海の江南造船所で建造されるであろう。これは、實際上 052C 型と同じガスタービンエンジンを使用することを意味し、したがって 052D 型ミサイル駆逐艦が誕生することになるだろう。KDR は、2009 年に、中国が新たに RIF-M 艦対空ミサイルを導入する問題についてロシアと討論した。現在の状況は、

HQ-9 型艦対空ミサイルの改良型がすでに中国海軍及び空軍に装備されていることが共通認識になっている。情報源によると、「中国軍は、改良型 HQ-9 の射程を 200 KM 以上に、また改良型 HQ-16A 艦対空ミサイルの射程を 30 KM 以上にするよう希望しており、中国はこのような技術を基礎にして新時代の防空駆逐艦を建造する。現在改良型 HQ-9 の技術的難関は、装薬技術であり、依然としてロシアとの間に技術格差がある。HQ-16 は困難な問題はない」という。

以上